

## 平成21年4月の解説（府県天気予報）

### 【4月の天候状況】

上旬は高気圧に覆われほぼ全国的に晴れる日が多かったですが、沖縄地方では寒気や前線の影響で曇りや雨の日が多くなりました。中旬も引き続き晴れる日が多くなりましたが、本州付近は中頃に低気圧の通過で荒れた天気となりました。下旬は旬初めと中頃に低気圧が本州付近を発達しながら通過したため荒れた天気となり、北日本では大雨や大雪となったところがありました。また旬初めの低気圧の通過後は日本付近に強い寒気が入り、それまでの高温から一転して低温となりました。

月を通しての日照時間は沖縄地方で平年より少なくなりましたが、その他の地方では平年よりかなり多くなりました。降水量は北日本の太平洋側で平年より多くなりましたが、東・西日本では平年より少なくなりました。気温は南西諸島で平年より低くなりましたが、その他の地方は平年より高くなりました。

### 【4月の検証結果】

17時発表の天気予報で「降水の有無」の全国平均の適中率は明日予報で90%、明後日予報で88%と、例年<sup>(注)</sup>よりそれぞれ6ポイントと8ポイント高くなりました。地方毎の適中率では、明日予報は九州南部地方と近畿地方から北日本にかけて例年より5から9ポイント高くなりました。明後日予報は九州南部、北部地方と近畿地方から北日本にかけて例年より7から11ポイント高くなりました。明日の最高気温の予報誤差はほぼ全国的に例年を下回り、特に北日本では例年より0.6から0.7小さく、全国平均では例年より0.3小さい1.7でした。また、最低気温の予報誤差もほぼ全国的に例年より0.2から0.3小さくなり、全国平均では例年より0.2小さい1.4でした。

(注) 例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

### 【4月の天気予報から】

4月25日15時の天気図(図1)では、紀伊半島付近と日本海に低気圧があり、それぞれ東北東と東南東に進んでいます。紀伊半島付近の低気圧は、夜遅くに関東の南岸を通過しました。このため25日は本州では広い範囲で雨が降り、東京地方でもほぼ終日雨となりました。

4月24日17時に発表した東京地方の明日(25日)の天気予報は「北の風後南東の風やや強く 23区西部では南東の風強く 雨」で、東京の0時から9時までの朝の最低気温を12度、9時から18時までの日中の最高気温を16度と予報しました。東京地

方では、低気圧が接近してくる午後には北の風から暖かい南東の風になり、気温は朝より上昇すると予想したからです。

当日の雨の予報は当たりましたが、風と日中の最高気温の予報を大きく外しました。図2のように、東京では午後も北よりの風が続き気温はほとんど上がり、日中の最高気温は11.8度と予報より4.2度低くなりました。一方、千葉では夕方に北東から東南東の風が変わって15度近くまで気温が上がりました。

これは、降雨の影響などによって関東地方の内陸にできた冷たい空気塊からの北よりの風が東京付近でも続き、低気圧の接近、通過にもかかわらず暖かい南よりの風が千葉県や茨城県の一部までしか吹かなかったためです。気温は、天気だけではなく風向きにも左右されますが、この事例のように冷たい北よりの風や、暖かい南よりの風がどこまで吹くかを正確に予想することが難しい場合があります。今後も、風や気温についてもより適切に予想して、正確な予報が発表できるよう取り組んでいきます。

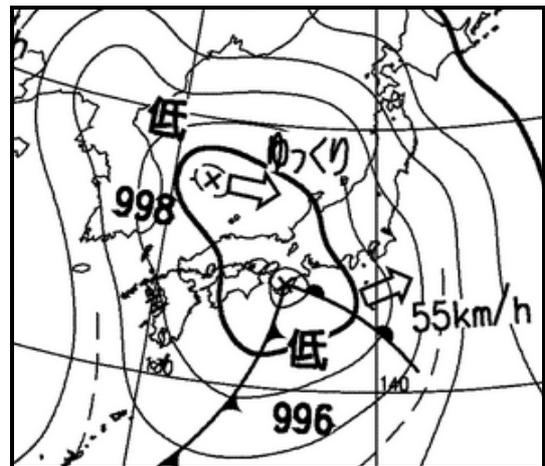


図1 4月25日15時の地上天気図

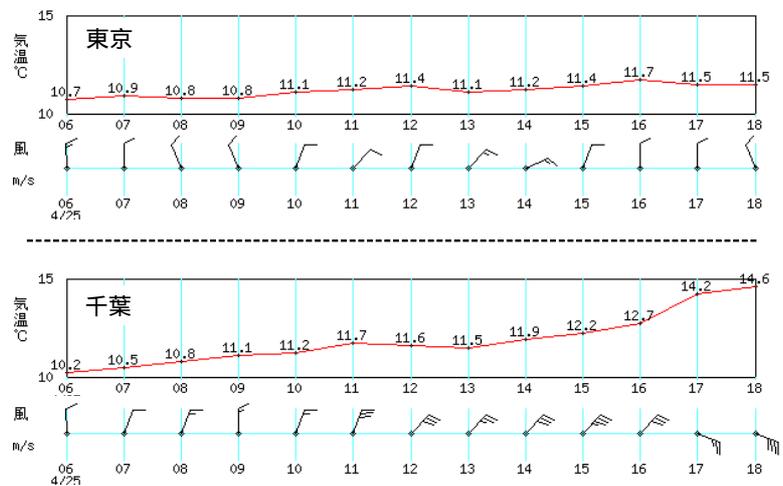


図2 東京と千葉の1時間ごと気温と風向風速 (6時～18時)  
風向風速の長い羽根は2メートル、短い羽根は1メートル

### 【6月の天気予報の利用にあたって】

例年、5月には南西諸島付近に停滞していた梅雨前線が次第に北上して、九州、四国や本州付近に停滞することが多くなり、6月上旬には全国各地で次々と梅雨に入ります。とはいえ、梅雨入りの時期や梅雨期間の天候経過などは年によって大きく違い、梅雨入りしたからといって毎日曇りや雨の日が続くとは限りません。いずれにしろ、梅雨の時期には毎年のようにどこかで大雨が降り、山崩れやがけ崩れ、河川の洪水や浸水などによる被害が発生しています。梅雨の時期に雨の天気予報が出ているときは、大雨や洪水についての警報、注意報などの防災気象情報に特に注意して下さい。